

富炭焼き体験窯で

炭焼き体験を楽しむ

炭は昔ながらの燃料で、バーベキューや焼肉などのエコ燃料として見直されてきています。また、消臭、除湿効果やインテリアとして使用されたり、おいしいご飯の炊飯に入れたり様々な用途があります。その炭がどのようにできていくのか体験してみましよう。

募集について

1. 場所…鏡野町富西谷白賀溪谷 富炭焼き体験窯
2. 体験料…1人1,000円
3. 体験日…Aグループ 7月30日(土)
Bグループ 8月27日(土)
4. 時間…9時30分～14時
5. 集合場所・時間
鏡野町富地域振興センター(電話(0867)57-2111)
駐車場・9時
6. 持ち物…軍手・タオルもしくは手ぬぐい・マスク・帽子
7. 募集人員…各グループともに20名

申し込みについて

申し込み先

鏡野町富振興センター内 白賀川地域協議会事務局
〒708-0701 苫田郡鏡野町富西谷125-1
電話(0867)57-2111 FAX(0867)57-2114

体験の内容

①炭焼きについて説明や注意を聞く→②窯から炭を取り出す→③窯に原木を並べる→④窯に火をつける→⑤窯の入り口を石や粘土で閉じる
〈注〉☆体験の際に炭焼き小屋では泥や炭で汚れる場合があります。汚れてもいい服装でお願いします。
☆協議会で事前に焼いた炭をおみやげとしてお渡しします。
☆昼食やお飲み物は、各自用意して下さい。

白賀川地域協議会

館長のガラストーク



今回はかわいらしい妖精が描かれたウランガラスをご紹介します。

このガラスは1890(明治23)年頃にボヘミアのヨゼフ・リーデル・ジュニアの工場で作られたものです。リーデル家は17世紀からガラスを作っていた名門で、ヨゼフはその7代目に当たります。1830年代(天保年間)にウランガラスを初めて作ったのはリーデル家の5代目フランツ・クサファー・リーデルで、フランツは自ら開発した緑と黄色のウランガラスに娘の名前を取って「アンナの緑」「アンナの黄」と名付けました。リーデル家のウランガラスはフランツの甥でアンナと結婚した6代目、ヨゼフによって商業的な成功を収めヨーロッパ中に広まります。

ヨゼフの息子の代に作られたこのガラスは、「アンナの黄」のウランガラスにフクロウと妖精が彫られています。妖精は薄い小さな羽根を持った少女の姿でぽつんと森の中に座っています。もともと上齋原で作られたウランガラスに「妖精の森ガラス」と名付けたのは、紫外線が当たると妖精のような神秘的な蛍光を放つからでした。この点で、ウランガラスの絵柄としては、ここに描かれたようなかわいい妖精が一番ふさわしいのではないのでしょうか。

妖精の森ガラス美術館 館長 畠山 耕造

<展覧会情報> 「エピソードでたどる…ウランガラスの世界」展
2011年3月30日(水)～2011年9月26日(月)

お問い合わせ先 妖精の森ガラス美術館 電話(0868)44-7888